

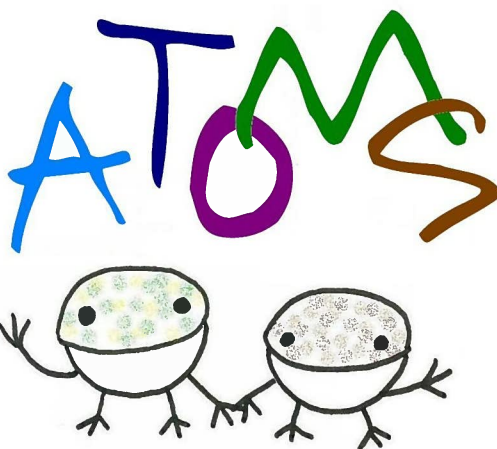
公益財団法人とよなか国際交流協会  
2015 年度年次報告書 (概要版)

# こくりゅう@home 2015

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日 (22 期)



公正で持続可能な多文化共生社会をつくります



Association for **T**oyonaka **M**ulticultural **S**ymbiosis



## とよなか国際交流協会 2015 年度年次報告書（概要版）

## こくりゅう@home 2015

も

く

じ

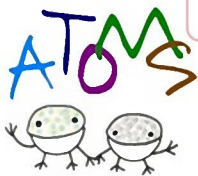
|   |       |
|---|-------|
| とよなか国際交流協会の活動について   | 3     |
| 理事長・常務理事あいさつ  | 4     |
| 外国人をとりまく現状と国流の取り組み  | 5-6   |
| ＜各事業からの報告＞  |       |
| ・学習支援・サンスレイス/子ども母語  | 7     |
| ・多文化保育にこにこ/韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい                                    | 8     |
| ・若者支援   | 9-11  |
| ・とよなかこどもにほんご教室/多文化子どもエンパワメントメディアプロジェクト（てーげー部）                   | 12    |
| ・小学校外国語体験活動/平和と共存のための～おまつり地球一周クラス                               | 13    |
| ・多言語相談サービス  | 14-15 |
| ・日本語交流活動「もっともっとつかえるにほんご」「とよなかにほんご・木ひる」                          | 16    |
| ・日本語交流活動「とよなかにほんご・金あさ」「にちようがちゃがちゃだん」                            | 17    |
| ・しょうない・おやこでにほんご/おかまち・おやこでにほんご                                   | 18    |
| ・せんり・おやこでにほんご/国際教育  | 19    |
| ・留学生・ホストファミリー事業   | 20    |
| ・ボランティア養成・研修・哲学カフェ・対話の会   | 21    |
| ・持続可能な開発のための教育の10年（ESD）とよなか/メディアリテラシー・市民セミナー<br>/講師派遣/多文化共生推進事業 | 22    |
| ・施設管理受託事業/市民活動協働事業  | 23    |
| 財務報告  | 24-25 |
| その他、TOPICS  | 26    |
| 事業一覧  | 27    |
| 役員紹介/スタッフ紹介   | 28    |
| 広告協賛  | 29-32 |

## 「こくりゅう@home」発刊に際して

本報告書は（公財）とよなか国際交流協会の2015年度事業報告の市民向け概要版です。

当協会は、毎年事業報告をウェブサイト等で公開してまいりましたが、この度、概要版を「こくりゅう@home（あっとほーむ）」と題して発行することになりました。（事業報告書の詳細版は当協会のウェブサイトからダウンロードしていただけます <http://www.a-atoms.info>）このタイトルは、公募したもものから、豊中市在勤のE.Yさんの「こくりゅう@home」を採用させていただきました。「こくりゅう」は国際交流協会の通称です。また、「@home（あっとほーむ）」は、国流はいつも事業に関わる人たち、センターを利用する人たちにとって、温かくお家のような（アットホームな）場所になってほしい、という願いとともに、自宅にいても（at home）国流の活動を知ることができますよ！という想いを込めてつけていただきました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

表紙写真：一番上真ん中より右回りに ①若者支援事業で「豊中まつり」へ。パフォーマンスを披露！②「チョアチョアハングル」にて。あいさつの仕方を学びました！③「多文化子ども保育にこにこ」タイルーツのになちゃんセンターのになきもの！④小学校で韓国の文化紹介中、⑤「おやこでにほんご」に集う外国人ママたち、⑥日本語交流活動、⑦⑧ホストファミリー交流のようす



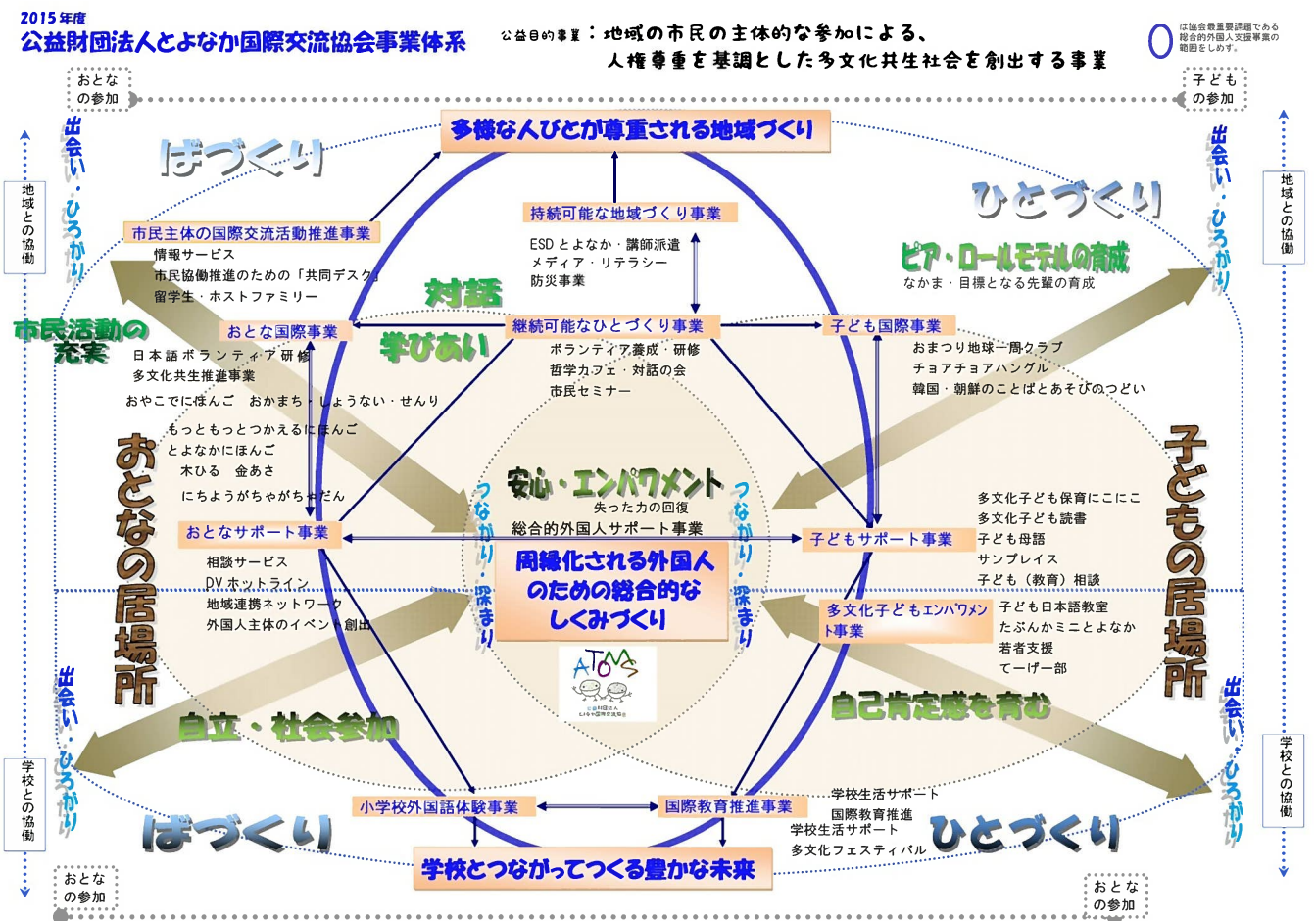
協会のシンボルキャラクター「コモヒスス」です！

# とよなか国際交流協会の活動について

～公正で持続可能な多文化共生社会を創ります～

外国人が安心して集える居場所づくり&エンパワーメントをすすめる事業や多文化共生社会を推進するひとづくりを中心に、さまざまな活動を地域や学校と連携しながら日常的に展開しています。

**【活動理念】**市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる



## 受賞歴

- 2014.01 第13回大阪弁護士会人権賞
- 2013.05 憲法記念日 大阪府知事 公共関係功労者賞
- 2013.02 公益財団法人 パナソニック教育財団 2012年度「子どもたちの“こころを育む活動”」奨励賞



## 公益財団法人とよなか国際交流協会

住所：大阪府豊中市玉井町 1-1-1-601

エトレ豊中6階 とよなか国際交流センター

TEL:06-6843-4343 FAX 06-6843-4375 (水曜休館)

E-mail: atoms@a.zaq.jp URL http://www.a-atoms.info



## 理事長あいさつ



皆さま、いつも当協会にご支援賜り、誠にありがとうございます。

今般、当協会の昨年度の事業内容を取りまとめた年次報告書を作成いたしました。毎年、事業報告書は作成しておりますが、当協会の事業が多岐にわたっておりますことから、「一般の方々にも、当協会がどのような事業をしているのか、よりよくわかるものを作ってみよう」ということになり、市民向けの概要版を作成いたしました。初の試みです。

当協会の事業は多岐にわたっております。その理由について、2点申し上げます。まず第1点。当協会の目的との関係です。当協会は、社会から孤立している等サポ

ートの必要な外国人のための総合的な仕組みづくりを事業の最重要課題としています。そのためには、多様な人びとが尊重される地域づくりも含め、多様な角度からの事業展開が必要となってきます。もう1点。新しい課題との関係です。当協会は、今生じている課題、間もなく生じるであろう課題について、できるだけの対応を積極的にすることを常に心がけています。その結果、新しい課題に対応するための新しい事業展開が必要となってくるのです。

さて、これから当協会の事業について、ご報告させていただきますが、この2点を頭の片隅に置きながら、それぞれの報告についてお読みいただくと良いかもしれません。

そして、大切なお願いです。当協会を今後ともよろしくお願いいたします。

まつもとやすゆき

松本康之 (理事長)

## 指定管理第三期を迎えて～「こくりゅう」のこれまでと、これから



1993年に豊中市の出資により創設された「とよなか国際交流センター(以下、センタ)」と「とよなか国際交流協会(以下、協会)」は、2011年度より公募型指定管理者制度が導入され、協会に関わる人々と知恵と力を出し合い、協会とセンターの活性化を図るために、「みんなでデザインする活動(人々)・協会(組織)・センター(公共空間)の5年間(略して“デザイン5”)」に取り組んできました。その結果、指定管理制度への戸惑いや苦悩もありながら、より多くの市民の皆さんや多様な分野の市民団体と

の協働関係を構築し、外国人への総合的な支援事業を中心に様々な課題を克服することができ、協会(組織)の成熟性とセンター(公共空間)の認知・利用度の拡充を図ることができました。

協会は2016年度より5年間(2016～2020年度)も引き続きセンターの指定管理者として、これまでの「市民主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる」を基本理念を掲げ、若者支援の充実、生活困窮世帯の子どもの学習支援と高齢者の支援、南部コーポセンター構想(南部地域活性化)へのアクセスなどの新たな事業へもチャレンジします。

きみ さん むん  
金相文

(常務理事/前事務局長)

# 外国人をとりまく現状と国流の役割

やまのうえたかし しむきよくちょう  
山野上隆史(事務局 長)

## 1. 日本で暮らす外国人の数

日本には多くの外国人が暮らしています。…が、そもそも外国人とはいったい誰のことでしょうか。国が統計等で発表している「外国人」の数は「日本国籍を有していない人」の数です。国が発表している最新のデータでは、日本に暮らす外国人は約 223 万人(2015 年末現在)となっています。ほぼ同じ時期の日本の総人口は 1 億 2711 万人ですので、日本に暮らす人のうち、約 1.75%が外国人ということになります。

日本に暮らす外国人は戦後から 1970 年代までは、在日朝鮮人を中心に、おおよそ 60 万人台で推移していました。その後、1970 年代後半から中国残留邦人の帰国、インドシナ難民の受入れが始まります。1980 年代に入り、国際結婚や留学等で来日する人も徐々に増え、1980 年代後半には 90 万人に近くになります。

この後、1989 年に「出入国管理法及び難民認定法(\*外国人の在留資格や難民認定等について定めた法律)」が改定され、日系人が「定住者」という在留資格で来日できるようになった後、外国人の数は大きく増えていきます。1990 年に 100 万人を超えた後、次の 15 年で一気に 200 万にまで倍増します。2008 年のリーマンショックや 2011 年 3 月に発生した東日本大震災により一時的に外国人の数は減りましたが、その後、再度増加の傾向にあり、特に 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決まってからは、さらにその動きは加速しています。

政府や経済界では、経済の回復・活性化だけでなく、少子高齢化・生産年齢人口の減少にどうやって歯止めをかけるかといった観点から、より積極的に外国人を受け入れることについて盛んに議論されています。また、介護、建設・造船、農業、家事労働など、これまで以上に多様な分野で外国人の受入れについて検討されています。

## 2. 国内の人の移動と外国人の増加

こういった外国人の増加は日本だけの話ではありません。アジアでは日本のほか、韓国や台湾、マレーシアやシンガポールなどが外国人の受入れ国となっていますが、外国人の増加は、しばしばその国の工業化や経済成長と同じ時期に起こります。いわば、外国人を労働者として受け入れることで工業化や経済成長を達成するわけです(\*もちろん、仕事のほかにも、よりよい教育や生活環境を求めて移り住む場合もあれ

ば、内戦や戦争、政治的迫害から逃れるために外国に移動することも多々あります)。

ところが、日本は外国人労働者の受入れではなく、日本の地方から都市や工業地帯へと集団就職などで人を集めることで、経済成長を達成しました。国内の人の移動で労働力を確保し、経済成長を達成したわけです。しかし、1980 年代に入って集団就職が終わったこと、またサービス業に従事する人が増えたことから、工場などでは人手が足りなくなりました。それを受けて、1990 年以降、ブラジルからの日系人や中国やベトナムからの技能実習生(\*日本の技術などを学ぶために、工場等で学びながら働く人たち)が増加します。日本国内の人の移動では必要な労働力を確保できなくなったわけです。

また、地方から都市や工業地帯への人の移動の結果、地方では徐々に人口減少、過疎化が進み、今では人口が減った結果、近い将来消滅する地方公共団体があるのではないかとさえ言われるような状況が起きています。農業や水産業、そのほか、各地の地場産業で働く外国人は増加しており、外国人なしには成り立たない産業も増えてきています。市や町の活性化や存続をかけて、外国人を積極的に受け入れることを明言する地方自治体も出てきています。

日本は国内の「地方から都市へ」という人の移動で経済成長を達成したものの、それは持続可能な形だったわけではなく、徐々に都市や工業が盛んな地域で外国人の受入れが増え、さらに地方も外国人なしには地域社会や産業が成り立たなくなってきたのが現状です。

このような状況を考えると、これから外国人と共にどうやって生きていくかを考えるということは、これからの日本社会を考えるということと同じなのだろうと思います。

## 3. 外国にルーツをもつ人

「外国人」は一般的には国籍に注目し、日本国籍をもっていない人のことを言いますが、それとは別に「外国にルーツをもつ人」という言葉があります。国籍ではなく、外国とのつながりを大事にした言葉です。日本の国籍法では、親のいずれかが日本国籍を有していると日本国籍を取得することができます。そのため、日本国籍を持っていても、親や祖父母、さらにはもっと前の代にさかのぼっていくと、外国につながる人たちがいます。日本では毎年、100 万人以上の子ども

が生まれています。両親のうち、どちらかが外国人の子どもが 2 万人以上います。祖父母まで含めて考えると、もっと多くの子どもが外国につながっていることとなります(両親ともに外国人の子どもも毎年 1 万人以上生まれています)。また、毎年 1 万人前後の人が帰化をして、日本国籍を取得しています。

最初に日本に暮らす外国人の数は約 223 万人で、日本の総人口の 1.75%だと書きましたが、外国にルーツをもつ人を含めると、もっともっと多くの人外国につながっているわけです。いつ日本に来たのか、自分が来たのか、親が来たのか、祖父母が来たのかなど、来日の時期や経緯、今までの歴史などはまさに様々であり、日本は数字が示す以上に多様な人々が暮らす社会だと言えます。

#### 4. 地域社会の一員として受け入れるために

日本には、すでに多くの外国人・外国にルーツをもつ人が暮らしていますが、現状では、外国人が日本社会で地域社会の一員として、安心して暮らせるようになるための取組は決して十分であるとは言えません。また、権利保障も十分ではありません。

例えば、日本で仕事をしたり、食事をしたり、子どもを育てたり、勉強したり、役所で手続きをしたり、病院に行ったり、買い物をしたり、友だちと遊んだり、自分の趣味に没頭したり…といったことは、国籍やルーツに関係なく、だれもが行うことです。しかし、情報がない、やり方が分からない、日本語が分からないといったときには、うまくできません。日本で生活する上で困らないように、しっかりと情報提供をしたり、日本語学習の機会を提供したり、友だちや仲間とつながったりする場や機会を作ることが必要ですが、地域によって取組状況はまちまちです。ただ、外国人は常に困っていて助けを求めているというわけではありません。自分の国ではバリバリに仕事をしていて、料理が得意、子育て経験が豊富、そのほかボランティア活動や趣味やスポーツが得意など、日本では機会がないだけで、もっといろいろなことができるし、したいという人もたくさんいます。東日本大震災や熊本地震の後、多くの外国人が「自分も何か役に立ちたい、できることをしたい」ということで被災地を訪れ、ボランティア活動を行いました。その姿はテレビや新聞などでも広く伝えられました。

一方で、労働現場における外国人労働者に対する違法な雇用形態や差別的な扱い等により、働けど働けど貧困状態が続き、生活不安に追いやられている事例があったり、ヘイトスピーチのように外国人であることを理由にした言葉や行

動による暴力も残念ながら起こっています(\*ヘイトスピーチについては、今年の 5 月に「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が成立しました。同法律は「ヘイトスピーチ解消法」と呼ばれたりします)。また、人身取引やDV(ドメスティックバイオレンス)によって保護される外国人の割合は日本人の 5 倍前後とも言われています。人の元氣や力を削ぐようなことは変えなければなりません。

外国人・外国にルーツをもつ人が、地域社会の一員として安心して生活ができるように、日本社会で生活していく上で必要な情報を得たり、スキルを身につけたりできるようにする、もともとの自分を表現できる環境を作る、持っている力や元氣を奪うことがない社会を作っていくことが必要です。

#### 5. とよなか国際交流協会が目指すもの

さて、こういった状況の中、国際交流協会には何ができるのでしょうか。公益財団法人とよなか国際交流協会では基本理念を次のように掲げています。

**【基本理念】** *市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる*

外国人の抱えている課題は幅広く、課題解決に必要なことを国際交流協会だけでできるわけではありません。また、国際交流協会だけで抱え込んでも、社会が変わらなければ、本当の解決につながらないこともあります。外国人・外国にルーツをもつ人が安心して地域社会で暮らせるように、市民、行政、学校、自治会などの地域の団体、様々な社会課題に取り組む団体などと協力して取り組んでいくことが必要です。

次ページ以降、とよなか国際交流協会の事業を紹介しています。それぞれの事業で「実はボランティアをしている私の方が元氣をもらっている」とか「私ももっとがんばろうと思った」などといった声を聞いたりします。多様な人との出会いの中で、お互いに元氣になっていくこともあるようです。外国人にとって生きやすい社会を目指すことは、日本人にとっても生きやすい社会を目指すことなのかもしれません。

もちろん、まだまだ課題はたくさんあり、できていないこともたくさんありますが、あれやこれやと言いながら、あんなことこんなことを考えながら、時にはぶつかったりもしながら、日々、多文化共生の地域づくりに奮闘しています。多文化共生のまちづくりは永遠に続くプロセスかもしれません。

おもしろそうだなと思った方、ちょっと気になった方、ぜひ一度、センターに立ち寄ってみてください。

こども  
サポート  
事業

# 学習支援・サンブレイス

外国にルーツを持つ子どもたちのための居場所づくり。大学生ボランティアが運営しています。  
毎週日曜日 13:00~15:00 (第一日曜日は休み)

ボランティアより

## 2015年度を振り返って

家庭、学校、そして第3の居場所サンブレイスという空間づくりをテーマに毎週日曜日(第一日曜日はおやすみ)活動しています。英語、中国語、台湾語、スペイン語、フランス語など話せる言語も豊富なボランティアが揃っているので日本語に自信がなくても大丈夫。学校の宿題を持ってきて勉強していたり、友達やボランティアと遊んだり、おしゃべりしたり。その時その時に自分がやりたいことができます。毎週サンブレイスには子どもたちの笑い声が溢れ、「また来週ね」って笑顔で手を振る姿を見るとボランティアの私たちも嬉しいです。豊中市にはまだサンブレイスのような場所と出会っていない外国にルーツを持つ子どもたちはたくさんいると思います。こんな場所もあるんだってもっと多くの人に知ってほしいです。他の学校の友だちもできる。ここには普段の生活とはまた違った、人との出会いや、文化の出会いといったさまざまな出会いがあります。外国にルーツのある子どもが知り合いにいらっしやれば、ぜひ紹介してあげてください。みんなとの出会いを私たちも楽しみに待っています。

## 2016年度に向けて

来年度はまたバージョンアップしたサンブレイスを計画しています。自分の居場所にしてもらうことはもちろん、そこからさまざまなこととの出会いを通じて自分の「輪」を広げられる場所を目指します。



写真上左:みんなでビリヤード/右:折り紙で遊ぶ/写真中:万博公園に遠足/写真下左:参加者が作詞作曲した歌をみんなで合唱/右:サンブレイスではダンスもしています

こども  
サポート  
事業

# こども母語

外国にルーツをもつ子どものための母語教室。中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語(2016年度より開始)を開講しています。(インドネシア語は2016年度より休み)講師はそれぞれのルーツをもつ若者です。  
第2、第4日曜日 10:00~12:00

ボランティアより

## 2015年度を振り返って

母語教室は、子どもが自分のルーツについて再認識し、自分の母語をもっと大事に感じてもらえるような場所を目指して今日まで取り組んできました。母語・継承語としての母語を楽しくしっかり身につけられるよう、スタッフ自身も切磋琢磨しながら活動中です。イベントも定期開催しているので、興味のある方、興味のある方、興味のある方を知っている方はお気軽におこしください。

## 2016年度に向けて

今通ってくれている子どもたちの母語レベルをさらに上げられるような教室を作り、「また次回も来たい」と2週間後を楽しみにしてもらえよう存在になること。さらにこの活動を多くの方に知ってもらい、来てくれる子どもがもっと増えるように広報にも力を入れていきたいと思っています。



スペイン語イベントでペルーのくす玉「ピニャータ」を割る子どもたち

みんなでペルーのポテトサラダ「カウサ」を作りました

こども  
サポート  
事業

# 多文化子ども保育「にこにこ」

外国にルーツをもつ乳幼児のための保育活動。保育ボランティアが運営しています。  
毎週木曜日 13:30~15:30 / 金曜日 10:30~12:00

ボランティアより



ふたりはなかよし！

## 2015年度を振り返って

木曜日と金曜日の日本語交流活動に参加する外国人保護者と一緒に来る、就学前の外国にルーツをもつ子どもたちの保育を行っています。センター内のプレイルームでの活動なので、その間は外国人保護者も安心してリフレッシュしながら日本語の勉強に集中できます。子どもたちにとっても、年齢差を超えた関わりを通して、日々の成長が見受けられます。保護者のみなさんや子どもたちにとっても、安心できる“居場所”のひとつになっています。

## 2016年度に向けて

毎週来てくれる子どもたちの成長を見守ることができてとても嬉しいです。様々な国の子どもたちがいるので、その国の音楽（童謡なども）を流し、映像（DVD）も用いながら、子どもも保育者も楽しく活動していきたいな、と思います。



ボランティアとねんどあそび中



部屋から飛行機がみれるよ！

こども  
国際  
事業

# 韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい

韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちが集まり、民族講師（ソンセンニム）や友達（チング）と自分たちの歴史や言葉、遊びなどの文化を学んでいます。毎月第3土曜日午前中に開催。

共催団体の豊中市在日外国人教育推進協議会の先生方より

## 2015年度を振り返って

毎月テーマを決めて活動してきましたが、普段はいつものメンバー・仲間内でのやりとりになっています。その中で、11月に参加した「多文化フェスティバル」は、子どもたちにとって大きなものだったと思います。練習時間は短かったですが、みんなでひとつの舞台に立つことを目標にして頑張りました。当日は民族衣装を着て踊り、ウリマル（韓国・朝鮮語で「私たちの言葉」の意味）でもあいさつをしましたが、どの子どもともいい表情をしていました。自分たちのルーツに誇りを持ち、自分に自信を持つことにつながっていることを願っています。



写真上) 5月、開校式後の自己紹介に向けての学習の様子です。  
写真中) 1月、ノリゲ作りで組み紐に挑戦している様子です。  
写真下小) 多文化フェスティバルで行うタルチュムノリについて学習している様子です。  
写真下右) 9月、南北 코리아もだち展に出品する絵を描いている様子です。

## 2016年度に向けて

月1回のつどいを子どもたちが楽しみにして来てくれるよう、いつでも笑顔で迎えてあげたいです。スタッフを増やして、もっと多くの眼で見守ってあげられたらと思います。ルーツを持つ子どもたちへの働きかけを続け、参加に結びつけていきたいです。

